

(宛名)

佐賀県東松浦郡北波多村字

徳須恵

榑崎喜太郎殿

(差出)

出征第六師団歩四八一中隊

上等兵

小林徳一

(本文)

発 十一月十六日午 五時廿 分

着 〃 月廿四日午前九時三十分

発簡地 於 散兵線ヨリ

受簡者 榑崎喜太郎殿

発簡者 小林徳市

拝呈 陳は御全家様益々御勇健ノ由賀奉

候 私事今□□敷□ノ戦斗ニ従事シテ

敵沢一発モ命中セズ実ニ楽敷今日ヲ送り

居候 十月四以来第一戦部隊トシテ敵ヲサル事

約千米突以内ニシテ一日モ戦斗セザル日は

ナシ 嗚呼年月□行モ早キ者最早

敷さる平年モ□リ 目下軍人ノ労働は

実ニ申シ□ラ 敵は一曾勇務ニシテ

夏に而巳雨ヲ堪へ難ク候ヘドモ 目下雪ニ

戦ヒ雨ニ敵シ風ト雨トヲ加ヘテ兵□

眼ニ見ルハ敵兵砲疊耳ニ聞クハ鉄声

馬声砲煙雨彈中ニテ思へば 実ニ

身ニ骨堪難ク候ヘドモ 軍人ノ本分は

戦争ガ本分故へ何ニ塞トモ愉快／＼ト

月日ヲ送り居候 軍人は一同死ストハ

身上故へ彈丸雨下ノ水ズノ其中モ前

進スルニハ一寸モ思ヒ居ル事ナシ

目下ノ時候は内地ニナキ寒中ニ御座候

土ノ中ニ住居八人宛ニ住居ト思ヒ居ル 陸軍

デサヨモ寒々困難□ 軍ハ何ニトヤ思ヒ居候

金之助君ニ差上候ヘドモ一同モ返

事モナク 此内井手秀五郎殿ノ通報

ニヨレバ金之助君ハ代十二師団ノ輜重

兵看護卒ニ入隊ノ処 去ル十月廿日之

集解隊ヲ命ゼラレ帰国成され候由

病氣不明病名不名トノ報ニ接シ

我ガ第一ノ戦友は金之助君ニシテ

実ニ一同モ書面ノ出シ取りヲセヌハ

実ニ残念ノ事ニ思ヒ 目下金之助

君ノ住居至急通知被下度

一日モ早ク□店□

三伸 御父兄様は何ノ御変リモナク

御消光被遊ラセ□□□

十一月七日上等兵ニ命ゼラル

榑崎喜太郎君

小林徳一

(宛名)

佐賀県東松浦郡北波多  
村字徳須恵

桤崎喜太郎殿

(差出)

出征第六師団歩四八

一中隊 小林徳一

(本文)

拝呈 陳ば御書面被下有難拝見仕  
候 御家内様益々御勇健ノ由  
奉賀候 降而小生モ十月五日迄

遼陽行撃後<sup>(改)</sup> 奉天方向に約三里

前進シテ長洛ノ間隊在致テ居リマシタ  
ガ 我ガ大隊は四師団ノ左翼ニ戦闘

前哨トナシテ約二里前進シテ 其日ヨリ  
敵ノサル事約千米突ニシテ今日迄

戦ヒセザル日モナシ事ニ 本月十二及ビ十六日  
は敵ノ我ガ大隊ニ向ニ前進スルヲ  
発見シテ大隊は全力ヲツクシテ敵ノ接近  
ヲ待居ルト 敵約千米突ニ接近シテ

大隊は直ニ射撃ス 約四時間モ  
大戦シテ敵を撃退スル 敵ノ兵  
力は約一<sup>個</sup>旅団ニシテ勇軍大隊及ビ  
騎兵一中隊ナリ 其日ノ敵ノ  
死傷者は約五六百ナリ 又十六日同敵ノ  
我レニ向テ追撃スル 敵ハ勇誠ニシテ  
益々前進スル 大隊は又敵ノ接近ヲマチ  
テ直ニ射撃スル 約四五時間モ大戦  
スル 敵モ我勇氣ニハ又退却シテ我レ是ヲ  
撃退スル 其日ノ敵ノ死傷者ハ多大  
ナリ 我軍モ多少ノ死傷者ヲ出セリ  
今日迄数同ノ戦闘ニ参加スレド  
今開<sup>④</sup>ノ如キ愉快ナル戦闘ハナシ  
小生モ戦闘中ハ中隊長ノ本ニ有リテ  
伝令及ビ報告ニ従事スルニ  
今日迄敵弾丸ノ一発モ命中セズ  
実ニ楽敷明日ヲ送り居候 目下  
敵ヲサル事約千米突ニシテ  
敵前ニアリ 十月五日ヨリ今日迄今ダ足  
又身ヲアライタル事モ無之 今日  
の時候は内地ノ十二月ノ末へ節ニ御座  
候 実ニ寒ク御座候也  
先は御家内様御身御用心  
專一二祈上候

檜崎喜太郎殿  
十月廿四日

小林徳市

五一四三 (PC270207～270208)

(表)

佐賀県東松浦郡北波

多村字徳須恵

桤崎喜太郎殿

出征歩四八一中隊

小林徳一

廿八年二月廿五日受 名誉戦死者

本人最終の葉書也

(裏)

拝啓 陳ば時下春寒ノ候ニ御座候

承り御全家様益々御勇健ノ由

賀奉候 降而迂生事目下砂

河付近ニ有シ第一戦部隊ニ

従ヒ 今日迄敵弾一発モ受ケズ

楽敷月日ヲ送り居候 草々

(宛名)

佐賀県東松浦郡北波多村  
字徳須恵

嵯崎喜太郎殿

(差出)

出征第六師団歩四十八  
聯隊一中隊上等兵

小林徳市

(本文)

謹啓 陳ば時下寒氣甚敷相  
成候 貴殿御書面被下有難  
拾貳月十八日差拝見候 御家内  
様益々御勇健ノ由賀奉候  
降而迂生事蓋平城ヨリ格地ノ戦  
斗及ビ攻撃ニ参加シテ今日迄  
敵弾一発モ命中セントハ実ニ何  
ト我身乍モ万々祝処也  
目下目前約三四百米突ニ露助  
ヲ有シ 陸兵士ノ眼ニ見ヘルハ敵兵  
砲壘 耳ニ聞ヘ砲声馬声一聞  
モ鋭声ノ堪ヘル間モ無之 右左前

後ニヒウーヒウト飛至リテ  
一寸モ面ニテモ防御工事ヨリ出ス事  
デキス 目下ノ寒氣0度下ル廿四度  
日々ニシテ 陸兵士ニテモ満州ノ寒ニハ  
困難スルニ海兵士は何ニ困難ト  
思ヒ居候 目下色々防寒用  
御支級ニ相成身ハ一寸モ寒キヲ  
感ゼス 手足等ガ実ニ寒氣ニ  
感シ 目下ニテハ敵ニハ一寸モ一足モ後ニ  
退却スル事ナシ 寒ニハ大に困難シ  
二三月節は0度下ル三十五度モ有之  
候ト承リ 只今ハ寒氣中間ニテ  
愉快／＼ト月日ヲ送り居候 世界  
ノ大強国トモ思ヒ居ル露助ヲ  
戦斗度ビニ連戦連勝ニテ  
目下敵は我が前方ニ数多ノ  
有シ頑強ニ防御工事ヲナス者ノ  
如シ 我ガ軍又同シ目下奉天  
方向ニ有リ 氷ノ厚サ約二尺ニシテ  
其上ヲ馬車及ビ砲車モ通行  
スル者如シ 書簡ニテモ筆ニテ書  
事ハ六ヶ敷 十月廿日以来人家ニ  
住居致タ事ナシ 軍人ハ一同戦  
死スルトノ身上故ヘ河ニ寒中敵  
弾ハ雨下ノ如シ共モ勇氣ニテ

土ノ中ニ住居スルハ人家ニ住居スルト

思ヒ軍人ノ本分ヲ尽シツツ有リ

先は貴君ノ御健康ヲ祈ル

二神

金之助君モ残念／＼病氣

ノ為目下唐津病院ニ入院

致候由ヲ承リ 大ニ迂生モ残念

ニ思ヒ之モ病氣ナラ致仕方

無之 一日モ早ク御養生致シ

退院一日モ早被成レ事ヲ

望ム

御家内様ニモ宜敷御伝

言被下度

月日ノ達行モ早キ者ノ最

早戦地ニ半年送ル 嗚呼

君ト月日ヲ送りシ其時ハイツノ

借シニ有ル成ルヤ<sup>(世)</sup>